

会 議 録

令和6年6月19日作成

会議名	第1回木更津市観光振興計画推進委員会		
開催日	令和6年5月23日(木)	場所	木更津市役所駅前庁舎 8階防災室・会議室
時 間	午前10時30分から午前12時10分まで		
出席者	委員 五十嵐潤子 神谷啓子 村上愛美 石原敬司 満間信樹 沼野丈幸 阿部厚司 坂口充男 市側 渡辺芳邦 大岩房之 齋藤あい子 前田健介 渡邊雅彦 江澤慶一郎 椎熊亜美		
議 題	(1)正・副委員長の選出について (2)第2次観光振興計画の振り返りについて (3)第3次観光振興計画の方向性について及び今後のスケジュールについて		
公開・非公開の別	公 開	非公開理由	—
傍聴人	0人		
概 要	下記のとおり		

(概要)

○事務局（齋藤）

それではお時間になりました。本日はお忙しい中ご出席いただきまして誠にありがとうございます。本日進行を務めさせていただきます、私、経済部観光振興課の齋藤でございます。どうぞよろしく願いいたします。以降、着座にて失礼いたします。

まず、委嘱状の交付をさせていただきます。

この度、本日、令和6年5月23日から、令和8年5月22日までの2年の任期で、木更津市観光振興計画推進委員をお願いすることとなります。

それでは渡辺市長から委員の皆様へ委嘱状を交付いたします。自席にてお受けいただきたいと思っておりますので、お名前を申し上げましたら、恐れ入りますが、その場でご起立をお願いいたします。

(委嘱状交付)

皆様ありがとうございました。

続きまして、渡辺市長からご挨拶申し上げます。

○渡辺市長 (あいさつ)

○事務局（齋藤）

渡辺市長は、この後別の公務がございますので、ここで退席させていただきます。

(市長退席)

○事務局（齋藤）

それでは、委員会の開催に先立ちまして、事務局から1点ご連絡させていただきます。

本日の議題3「第3次観光振興計画の方向性について及び今後のスケジュールについて」事務局より説明後、委員の皆様より1人ずつご意見を賜りたいと思っております。

なお、本日の会議ではマイクシステムを導入しておりまして、会議録作成のため、会議内容を録音させていただきますので、あらかじめご了承くださいと思います。

なお、ご発言の際は、お手元のマイクのボタン、銀色のボタンを押していただきますと、ライトが赤く点灯いたしますので、点灯いたしましたら、お名前をおっしゃっていただいてからご発言をお願いしたいと存じます。

また、発言後は、もう一度銀色のボタンを押していただきますと、マイクがオフになりますので、そちらをよろしく願います。

それでは議題に入る前に、お手元の資料の確認をさせていただきます。

配付資料は、1つ目、「第1回木更津市観光振興計画推進委員会次第」。2つ目が、「木更津市第2次観光振興計画施策検証評価シート」。3つ目が、「次期計画の構成」。4つ目が、「観光振興計画推進委員会組織図」。最後に、「計画策定のスケジュールについて」、でございます。

不足の資料がございましたら挙手にてお知らせ願います。

大丈夫でしょうか。

本会議につきましては、木更津市審議会等の会議の公開に関する条例第3条に基づき、公開することとなっております。

本日の傍聴人はおりません。

それではただ今より、第1回木更津市観光振興計画推進委員会を開催いたします。

本日初会合となりますので、委員の皆様には、恐れ入りますが自己紹介をお願いしたいと存じます。配付させていただいた名簿順にお名前をお呼びいたしますので、ご起立の上、一言ごあいさつをお願いしたいと思います。それでは、五十嵐委員の方からよろしくをお願いいたします。

(各委員及び事務局よりあいさつ)

○事務局(齋藤)

それでは議題に入りたいと思います。

本委員会の議事進行は、附属機関設置条例第6条第1項により、委員長が務めることとなっておりますが、本日初めての委員会で委員長が決定しておりませんので、委員長が決定するまでの間、経済部長の大岩が仮議長を務めさせていただきます。

大岩部長、よろしくお願いいたします。

○仮議長(大岩部長)

経済部長の大岩でございます。委員長が決まるまでの間、仮議長を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

本日の出席委員数は、8名でございます。過半数の出席をいただいておりますので、附属機関設置条例第6条第2項の規定により、本委員会は成立いたします。

それでは、これより議事に入ります。議題1「正・副委員長の選出について」を議題に供します。正副委員長の選出は、附属機関設置条例第4条第1項の規定により、委員の互選となっております。選出方法はいかがいたしましょうか。

○仮議長(大岩部長)

もし、何もないうちであれば事務局案を作っておりますので、もし事務局の方に一任いただけたらと思いますがいかがでしょうか。

○委員一同

異議なし。

○仮議長(大岩部長)

それでは事務局の方からの案について、事務局の説明よろしくお願いいたします。

○事務局(前田)

委員長・副委員長についてでございますが、委員長につきましては、明海大学の教授である五十嵐委員、副委員長につきましては、木更津市観光協会の事務局長である神谷委員をご提案いたします。

○仮議長(大岩部長)

ただいま、事務局から五十嵐委員を委員長に、神谷委員を副委員長に推薦したいとの発言がありましたが、いかがでしょうか。

○委員一同

異議なし。

○仮議長(大岩部長)

ご異議ないものと認め、委員長に五十嵐委員、副委員長に神谷委員を選出させていただきます。それでは、今後の進行につきましては、五十嵐委員長に議長をお願いすることとさせていただきます、これで仮議長の任を解かせていただきます。ご協力ありがとうございました。

○事務局(齋藤)

大岩部長ありがとうございました。五十嵐委員長、これからの議事進行よろしく願います。

○五十嵐委員長

ただいまご指名をいただき、議長を務めさせていただきます、明海大学の五十嵐でございます。僭越ではございますが、しっかり務めたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

ちょっとたまたま昨日の訃報で、木更津に非常にゆかりの深い名俳優の方がお亡くなりになられて、そのこと自体は非常に悲しむべきことですが、一方で、レガシーともいえるものがまた木更津に寄贈されたとも聞いておりますので、そういった中では木更津の観光が持つ多様性ですとか、広がり、奥深さみたいなものを改めて感じた一晩でございました。

これからは、本日の議題に向けて、議事進行させていただきますので皆様ご協力の方よろしく願います。

それでは、議題2「第2次観光振興計画の振り返りについて」を議題に供したいと思いません。事務局の方からご説明をお願いいたします。

○事務局(前田)

事務局の経済部観光振興課の前田です。着座にて説明いたします。

まずは資料の2をご覧ください。私からは、「木更津市第2次観光振興計画の振り返りについて」を説明させていただきます。

まず、8ページ目をご覧ください。

令和2年に策定された木更津市第2次観光振興計画ですが、計画期間である令和6年度末までに、観光入込客数については、2,233万人、宿泊客数については66万人の効果目標を掲げております。

平成30年には2,000万人を超えていた観光入込客数でありましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年は約1,532万人。令和3年には約1,457万人と数値が落ち込みました。令和4年には約1,545万人。令和5年に約1,597万人と徐々に増加してきておりますが、効果目標である2,233万人には届かない見込みとなっております。

宿泊客数については、令和2年は約38万人。令和3年には約36万人と減少していますが、令和4年に約57万人。令和5年に約61万人と、コロナ前の水準まで戻ってきています。令和4年に一気に増加した理由としては、全国旅行割の影響があると考えられます。

次に、第2次観光振興計画の中で、観光振興に向けた5つの柱として設定した具体的な取り組みについて振り返ります。

資料の1ページ目にお戻りください。

1つ目の柱は、「みなと・街なかの賑わい創出」として、本市の豊かな自然、歴史、文化などを活用したイベント等により、みなとや街なかの賑わいを創出することを目標とし、パークベイプロジェクトとの連携や、各種イベントの充実などを主な取り組みとしています。

取り組み1のパークベイプロジェクトの一環として、木更津駅とみなとをつなぐ富士見通りの再整備を行っておりますが、街なかのさらなる賑わいを創出し、回遊性の向上を図るため、どのように官民連携をしていくのかが、今後の課題となっております。

取り組み3では、計画初年度である令和2年度から、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、人流の抑制、3密の回避といった感染症対策のため、各種イベントを中止とせざるをえない中、花火の分散打ち上げやドライブスルー型のナチュラルバルなど、人が密集しない形でのイベント開催を模索しました。

令和5年度には、木更津港まつりや木更津パークベイフェスティバルなどの大規模イベントが再開し、盛り上がりを見せました。

一方で、木更津港まつりについては、人件費や資機材費の高騰により、大会運営費が増

加の一途をたどっており、自主財源の確保が課題となっております。

2ページ目をご覧ください。

2つ目の柱は「持続可能な地域資源の活用」として、きさらづDMOと連携して地域における既存の観光資源のほか、自然・食・スポーツ・歴史・文化・工芸など多様な地域資源を活用し、人と地域資源が調和した観光地域づくりを目標とし、地域の魅力体験ツアーの造成や里山・里海プログラムの推進などを主な取組としています。

3ページ目の取組10ですが、金田みたて海岸を活用した「きさらづ CAMP ORGANIC FIELD in みたて」や、里山・里海に触れながらSDGsが学べる「きさらづミライマナビ旅」といった、木更津の有する豊かな里山・里海を活用した観光体験プログラムを、きさらづDMOが中心となり開発しました。また、新型コロナウイルス感染症の影響の中で需要が拡大した、ワーケーションに対応したトレーラーハウス型宿泊施設を設置・運営し、本市の新たな観光資源となっています。

また、観光庁の補助金を活用し、木更津市が有する歴史や文化などの観光資源に加え、インフラ施設など新たなコンテンツを盛り込み、インバウンドも視野に入れた観光ツアー造成事業を行いました。

取組11のロケツーリズム事業においては、都心からのアクセス性を活かした誘致や支援を行うことで、令和5年度の撮影支援数は66件で、県内トップの実績を誇っております。

一方で、取組6の木更津市観光協会の「インバウンド・プロモーション部会」の活動や、取組8の観光協会と千葉大学の学生などが協力して行っていたフィールドワークなど、新型コロナウイルスの感染拡大により活動を中止、縮小している取組の今後の方向性を検討していく必要があります。

4ページ目をご覧ください。

3つ目の柱は「広域連携の拡充」として、行政区域を越えた観光地との連携により、多様な観光ニーズに対応できる体制づくりを推進し、地域の活性化と広域的な観光振興を図ることを目標としており、スポーツツーリズムの推進やきさらづDMOの充実化などを主な取組としています。

取組12のスポーツツーリズムの中でも特に本市が力を入れているサイクルツーリズムの取組については、南房総市と連携した「房総半島サイクリングガイドブック」の作成や、市原市と連携した「サイクルツーリズム拠点整備調査事業」として、うまぐたの里に仮設シャワー等のサイクルステーションの実験的な開設などを行いました。

また、取組15において、久留里線活性化協議会との連携により久留里線を活用したサイクリイベントの開催や、サイクリストの注目度の高い「ツール・ド・ちば」や期間型サイクリイベント「サイクルボール」などの開催により、市内外から参加者や関係者等の誘客を図ることで、本市だけでなく近隣地域への消費を促しました。

さらに、市内の主要立ち寄り施設にサイクルラックを整備し、サイクリストがより利用しやすい環境整備を図り、誘客を推進しているところです。

今後は、市内にて自転車活用推進計画の策定を検討しており、検討委員会を関連部署と立ち上げたことにより、サイクルツーリズムをソフト面・ハード面の両方から整備を進めていく予定です。

5ページをご覧ください。

4つ目の柱は「効果的なプロモーションの確立」として、観光地としての認知度の向上を図るため、メディアやICTを活用した情報発信及び、観光事業者と連携したツアー造成による集客を目標とするもので、MICE誘致の推進、回遊性の向上などを主な取組としています。

取組16の「MICE誘致推進」では、新型コロナウイルスの感染拡大の影響下であった令和2、3年度は、国際会議の開催はありませんでしたが、令和4、5年度はそれぞれ1件ずつの開催があり、令和6年度は2件の開催予定となっており、増加傾向にあります。

一方で、羽田空港や成田空港からコンベンション施設への高速バス等の公共交通機関の直行便がなく、アクセス面で不利な点が誘致における課題となっていることから、ちば国際コンベンションビューローと連携し、公共交通機関を利用する際に補助金を拠出するなど、アクセス面での補助体制について検討するとともに、プレ・ポストコンベンションの充実や効果的な情報発信などMICE誘致に向けてより積極的な取組を行っていく必要があります。

取組17の「回遊性の向上」では、今まで紙媒体の「週末木更津計画」により、市内の飲食店情報やイベント情報を発信し、令和4年度よりWEBサイト「木更津おでかけナビ」へと運用を変更し、より多くの人々が利用できる環境にしたことで、回遊性の向上を図ることができたものと考えております。

6ページ目をご覧ください。

5つ目の柱は「おもてなし体制の充実」として、市や地域の観光事業者、観光関係団体、市民等が観光地域づくりへの関心と理解を深めることで、おもてなし機運の醸成及びおも

てなし力の向上を目標とするもので、インバウンド観光の推進、訪日外国人及び海外への情報発信などを主な取組としています。

取組22において、令和5年度には新型コロナウイルスの感染拡大の影響で中止となっていた、ダナン市日越交流フェスティバルへ参加したり、同市における木更津市の観光セミナーを開催したりしたところ、現地メディア10社含む57社、延べ80名の参加がありました。令和6年度も同様にダナンフェスティバルへの参加予定であることに加え、千葉県台湾プロモーションに随行しアジア圏への積極的な誘致に取組みます。

取組24の本市のおもてなし体制としては、県の補助金を活用し、観光トイレや案内板の新設、改修などを行い、また、公共空間の無料Wi-Fi整備など観光客の受け入れ体制を整えているところです。

また、取組26では、多言語観光情報サイトを活用し国内外へ情報発信を行っておりますが、今後、インバウンドをターゲットとした情報発信を得意とする事業者と連携して、SNSやインフルエンサー等を使った観光プロモーションを検討しています。

以上が取り組むべき5つの柱についての検証となります。

第2次観光振興計画が策定された初年度に新型コロナウイルス感染症が流行し、経済・社会情勢が大きく変革したことで、計画していた事業や取組を大幅に見直す必要が生じました。新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、国内外の観光需要が伸びていく中、変化した社会とニーズに合わせた事業やプロモーションを行っていく必要があると考えられます。

次期計画では、変化する社会情勢に対応しつつ、本市の持つ魅力を最大化できるような枠組み作りが求められますので、関係団体の意見を吸い上げ、委員の皆様のお力を借りながら、より良い計画を作成していければと考えております。以上です。

○議長(五十嵐委員長)

前田係長ありがとうございました。

事務局の説明が終わりましたが、皆様の方から質問やご意見等ございましたらお願いいたします。

○満間委員

質問ですけれども、振り返りをされている中でよく見ると、数字がですね、結果の評価に対する数字があんまり見えていなくて、何とも言えないなあと思って、お伺いしたいんですね。

例えば、ベトナムでマスメディアが何社来ました。でもそれはKPIであって、KGIは何ができたんですか。といったお話じゃないですか。どこを目標にして、どこをゴールにしてきたのか関連性が見えないといけない。今後の方向性はわかるのですが、今のお話では、どこに評価がされてきたのかがわかりにくい。

こういった計画書は総論にならざるを得ないのはわかっているんですけど、どこを評価したかっていうのが数値的にデータでわかるようになってないといけない。こういったデータって事務局で持っていたりしますか。トレーラーハウスをつくりました。じゃあ、稼働率はどうでした。といった、わかるような数字は持っていますか。

○事務局(前田)

今おっしゃったように、トレーラーハウスとかキャンプとかの収益の数字は、データとして管理しております。

今回、振り返りということで総論的なお話が多くなってしまったので、具体的な数値というところのデータが、あまりお示しができなかつたんですけども、事務局としては今おっしゃっていたようなKGI、KPIっていうのを定めた上で、効果目標というのを立てて、計画を策定しておりますので、そのことについての振り返りっていうのは可能となっております。

○満間委員

ありがとうございます。

それを見せていただくと、何をどうしたのかっていうのがわかると思います。

○議長(五十嵐委員長)

満間委員、事務局ありがとうございました。

第2次計画の中では、資料8ページの数字が本質的なKGIだったんだと思うんですけども、一方では、取り組んでいる施策ひとつひとつにそれ相応の効果測定が必要だよなっていう見解だと思います。

ただ、単年度では測れない、中長期のものの中にはあると思いますので、それらを含めて、何をもちって効果測定していくべきか、というところを皆様のお知恵をいただきながら、今後の第3次計画の策定を進めていくのがよろしいかなと思います。

そのためにも、わかる範囲の中でお出しいただけるものがございましたら、次回の会議の際によろしく願いいたします。

他にご質問、ご意見よろしいでしょうか。

○石原委員

木更津商工会議所 石原でございます。今日の会議に参加するにあたり、そもそも観光振興計画がどういったものか全く私わからなくて、こういった計画書の資料がホームページに出ていたの、確認させていただいたんですが、この質問でも大丈夫ですか。

観光振興計画の後ろの方に調査概要というのが18ページにあるんですけども、この調査というものは、第1次観光振興計画というものがあって、その結果を調査概要として載せて第2次計画に活かしているものなのか、第1次計画とは別に調査して、第2次計画をつくったのか、そのあたりを知りたいと思います。

○事務局(前田)

石原委員からのご質問ですけども、第2次計画を策定する際に、アンケート調査を調査概要として載せているんですが、そちらについては、観光協会が行っている調査をそのまま使わせていただいたという経緯がありまして、おっしゃっていたように第1次計画について振り返りの調査をしたわけではないということになります。

○石原委員

満間委員からお話があったとおり、ある程度の結果を求めるとすれば、利用者やニーズを求める方からのアンケート調査は結果の一つで、第3次計画をつくる上で役立つのではないかと思います。もちろん、コロナの影響でなかなか思うように計画を進められなかったことは、私も重々承知しておりますので、やったことの中でアンケート調査をとって、「ここが良かった」、「あれが悪かった」みたいな振り返りをしつつ、第3次計画をつくっていくやり方が建設的だと思います。

○議長(五十嵐委員長)

アンケートをとって第3次に活かすってということについては、事務局のコメントとしてはいかがでしょうか。

○事務局(前田)

今回の第3次計画策定については、これから事業者へ委託を検討しておりまして、これから業者の選定というのをさせていただくんですけども、その中にアンケート調査の項目は入れてあります。

○石原委員

手法は別として、木更津に人が来て、楽しんでお金を落としていくという現実があるのであれば、その部分をフォーカスして、どんどんデータを取り入れていけばいいなと思ったので、観光協会のアンケート調査はすごく大事だと思います。

○議長(五十嵐委員長)

いずれにしても、どこがとられるアンケートかは別にして、何らかの形で、来られた方々のニーズ、或いは実態を把握できるアンケート結果が、次回の策定に何らかの形で活かされる環境が望ましいと、いうふうに委員からご意見いただいたということによろしいでしょうか。

他にございますか。

では、ここで質疑については終了とさせていただきたいと思います。

続きまして、議題の3「第三次観光振興計画の方向性について」と、あわせて「今後のスケジュールについて」、議題に供したいと思います。事務局の方からご説明お願い申し上げます。

○事務局(前田)

では引き続き、事務局から説明させていただきます。

資料の3をご覧ください。

議題3「第3次観光振興計画の方向性について及び今後のスケジュールについて」を説明させていただきます。

次期計画については、国の計画である「観光立国推進基本計画」や県の計画である「観光立県ちば推進基本計画」に基づいた上で、本市の上位計画である「木更津市基本構想」及び「木更津市第3次基本計画」において、掲げられている目標やキーワードを取り込み、それらを実現するために具体的な事業計画として反映させていくこととなります。

特に「木更津市第3次基本計画」では「サイクルツーリズム推進事業」を重点事業に位置付け、観光の振興に関する記述では、「観光漁業の推進」として観光施設や商業施設等と連携したPR活動の強化や潮干狩り場来場者の市内各所への回遊促進を、「観光誘客の推進」として港まつりなどのイベントの開催や広域連携による観光誘客推進及びサイクルツーリズムの推進を、「観光地域づくりの推進」としてきさらづDMOとの連携や里山・里海を活かした観光コンテンツの充実及びトレーラーハウス宿泊施設活用によるワーケーションの推進を、「国際会議等のMICE誘致」としてJNTO等と連携したMICE誘致推進や関係施設と連携した会議運営支援などを達成すべき目標として掲げています。

以上のような関連するキーワードを整理しつつ、庁内関係部署の各計画や施策との調整を図りながら、素案を作成していく必要があります。

次に、資料4をご覧ください。

次期計画策定のための組織図となります。

第2回以降の委員会において、委員の皆様には計画素案のご審議をいただくこととなりますが、素案作成につき、本市の観光に係る関係団体の意見を吸い上げる機会として、懇談会を設置する予定です。「飲食・宿泊」、「文化・体験・スポーツツーリズム」、「情報発信」の3部門とし、各部門6人を想定しております。

先に述べました、キーワードや懇談会の意見に加え、観光に関するアンケート結果や社会・経済情勢の変化を反映して素案を作成し、第2回の委員会においてご審議いただく予定です。作成した素案については、事前に委員の皆様には送付させていただきますので、内容をご確認していただいた上で第2回の委員会に出席いただければと思います。

資料5をご覧ください。

今後のスケジュールですが、8月末、9月末に懇談会を開催し、意見を素案に反映させたのち、仮の日程となりますが、10月10日木曜日に第2回委員会を開催する予定です。

そこで、素案に対するご審議をしていただき、いただいた意見により修正した内容で12月における議員全員協議会にて議会への説明を行います。

議会への説明後、1月末までにパブリックコメントを実施いたしますが、本市ではオンラインを用いた市民参加型合意形成プラットフォーム「Liqlid(リクリッド)」を使用し、広く市民からの意見を吸い上げる予定です。その後、これも仮の日程となりますが、2月21日金曜日に第3回委員会にて諮問・答申を行い、3月末に第3次観光振興計画の策定とする予定です。議題3については以上となります。

○議長(五十嵐委員長)

事務局からの説明が終わりましたので、それでは、事務局からの説明を踏まえまして、委員の皆様からおひとりずつご意見を頂戴したいと思います。ご発言の方は、神谷委員から順番にお願いしたいと思っておりますので、その後もし補足等があれば、またご自由にご発言いただいてもよろしいかと思っておりますけれども、まずは順番にお願いいたします。

○神谷委員

私も観光協会に入りまして10年を超えたところですが、第2次の計画を作られた過程もちょっと覚えております。当時はコロナ禍前で、担当の係長さんが作られていたなと思い出したところです。

ただ、第2次計画を策定した後にコロナ禍に入って、観光協会もきさらづDMOの方が稼働し始めたところでコロナ禍になり、ここ3、4年の間に大きくやっている内容が変わりまし

た。

コロナに入る前は、地域の方と連携していろいろなことをやっていましたけれども、金田みたて海岸のところで、キャンプ場の運営と、あとトレーラーハウスの運営っていうのを、昨年から通常営業が始まりまして今年2年目になったところです。キャンプ場の運営にしても、プロのいる環境ではなかったのと、トレーラーハウスの宿泊の体制っていうのも本当に手探りで、DMO地域づくりのために入っていた職員を中心に、宿泊、また、キャンプ場の現場職員として、1年間走ってきました。

最近やっと体制が整って、トレーラーハウスの方も今年のゴールデンウィークはかなり宿泊の実態も増えてきて、キャンプ場の方もとても好評で、本当に景色のいい場所なので、その素材を生かしての運営ができるようになってきたところです。

本来やらなきゃいけないのは、観光地域づくり、地域の方々、観光事業者の方々と連携してもっともっとやっていかなきゃいけないことを、今年、体制をしっかり整えて、やっとスタートしたところで、三日月さんのSDGsセンターともご協力できればということでございます。

○議長(五十嵐委員長)

ありがとうございました。続きまして、村上委員お願いいたします。

○村上委員

村上です。お話をお伺いしていて、第3次計画の枠組みで言うと、国際会議等のMICE誘致が私の専門なので、そこでちょっと感じたところを2つお話できればと思っています。

まず、1つ目が国際会議の誘致のときに、サステナビリティということが必ず、開催都市で求められてきます。そういった点で、木更津市さんのオーガニックシティというところを掲げてやってらっしゃるのですが、具体的になってないので、その辺もまた皆さんとご相談させていただければ、というところがあります。

2つ目が、誘致の点で言うと、これは木更津市さん問わずなんですけど、千葉県全体で観光コンテンツがないよねっていうことが、国内外のお客様から必ず言われることです。私個人的にはたくさんあると思っているんですけども、なかなかその情報発信ができていないとか、実際に興味は持っていただくんですけど、例えば、事業者さんの方で多言語化ができてないから受け入れ体制がないとか、パッケージ化されてない料金がないので全くわからない。じゃあ、結果、興味あったけれど、決まりませんでした。っていうことが結構ありますので、私自身も木更津市さんのことをまだまだ勉強不足なところがたくさんある

ので、今回の、この計画の委員をさせていただきつつ、木更津のことも勉強して、周知の方に反映できればと思っております。以上です。

○議長(五十嵐委員長)

MICEのプロの視点からありがとうございました。

では、続きまして、石原委員お願いいたします。

○石原委員

木更津に限ったことじゃないと思うんですけども、木更津って「〇〇があるから行こう。」とか、「〇〇は木更津じゃなきゃ体験できないよね。」ってこととかが、なかなかやっぱりない気がしていて、特に自分は、商工会議所今年で19年目になるんですが、入って5年目になる頃に、皆さんご存知だと思うんですが、「木更津キャッツアイ」のプロジェクトに参加していた時期がありまして、出張でいろいろと全国へ行きますと、「木更津って、キャッツアイですよ。」という、第三者の中で「これは木更津だよ。」みたいな、ランドマークやネーミングブランドのようなものがあつたらいいなと思います。

それ目的で木更津に来てもらって、木更津に来る手段で交通関係の事業者さんを使ってもらい、市内を回遊してもらって、帰りに飲食店でご飯を食べてもらうのが、会議所の会員さんにとって嬉しいことだと思います。

「木更津に行けばこれがある。」「木更津ってこれだよ。」のような、来たくなるようなものが、一つあつたほうがいいと思います。

個人的には「木更津キャッツアイ」のイメージが強かったので、あの時のやっさいもっさい踊り大会の参加連は、3分の1くらいがキャッツアイのファンで、未だに当時のグッズを目当てに来られる方もいます。一昨日も三重から来られた方がいらっしゃいました。

さっき、観光に乏しいみたいな話がありましたけれど、コアなファンをつくりたいですよ。

○議長(五十嵐委員長)

ありがとうございます。ロケツーリズムじゃないですけども、非常に強烈なブランディングができると、そういうことも起こり得るんだと思いますが、なかなかそれ以外のところで、特定の観光コンテンツを強化するというよりはもしかしたら、回り方だったり、何らかのブランディングだったりが必要っていう、要は個性として木更津をどう売り込んでいくのかっていうプロモーションの方にも関係してくるようなお話というふうに理解いたしました。

では続きまして、満間委員お願いいたします。

○満間委員

2つあります。

1つ目はですね、指標のところは、宿泊した人数と、流入人口のことが書いてあるんですけど、そろそろ観光消費額みたいな観点に変えませんかという話です。これ、インバウンドの議論で観光庁やっとなら観光消費額に変えましたけど、島国なんで、限られてるわけですね航空路線と船の路線で、何人って言ったって、いつか上限が来るので、消費額に変えましょうと、もう消費額で行かないと。

例えば、「三井アウトレットパーク木更津さんがまた増設しましたね。またお客さん増えましたね。」それって、僕たちがやっていることと、三井アウトレットパーク木更津さんがやっていることと別問題じゃないですか。というふうなことになってしまう。

ただの人数という考え方は、やめたほうが良いんじゃないかなと思います。

2つ目はですね、福井県鯖江市って眼鏡って皆さん言うじゃないですか。あと、漆器でも有名なんです。鯖江市長の話を書いたら、「悩んだけれども、わかりやすい方一つにしないと。あれもこれもじゃだめだよ。」とおっしゃって眼鏡のまちになっています。

これは、ブランディングの仕方だと思うんですけど、もう少し木更津市がうたっている「オーガニックシティ」の文脈を太くした方がいい。

資料3に、木更津市基本構想から第3次基本計画の流れが書いてありますが、ここに書いてある「環境づくり」や「人づくり」といった言葉は、誘客する意味ではちょっと違うかなと思います。僕は勝手に「オーガニックシティ」イコール「SDGs」と思っているんですけど、ずっと前から「オーガニックシティ」とうたっているから、もっとこの言葉をアピールしたほうがわかりやすいと思います。SDGs未来都市に選定された背景と組み合わせたほうが、良い道筋になるんじゃないかなと思います。

見せ方や力の入れ方の問題もあるとは思いますが、少ないインバウンドも含めて、一番、市が力を入れている強みの部分を前面に押し出したすほうが、早く無理がないんじゃないかなと思います。以上です。

○議長(五十嵐委員長)

満間委員ありがとうございます。

個人的には私も、指標としては、消費額観点を入れたほうが良いかなと思っております。それこそMICEの効果も測定しやすくなりますし、1人当たりの消費額っていうものが、どういうところに行くとうどん高くなっている。みたいなことがわかりやすくなって、施策に

も反映されやすいと思います。

どうやって取るかっていうのは、観光庁と同じってわけにはいかないと思いますので、そこには工夫がいると思いますけど、これからもし業者を選定されるときに、そういったことも視野に入れていただくと、もしかしたらいいアイデアが出てくるのかなと思ったりもしました。

続きまして沼野委員お願いいたします。

○沼野委員

沼野です。先ほどからお話を聞かせていただいて、この評価シート等にある項目がかなりの広範囲にありますので、今日これをいただいたので、じっくり読ませていただきたい。と、今思っているところでございます。

うち、バス会社ですので、バス会社の目線で言うと、木更津っていうとアクアラインの高速バスが路線によってはかなりの便数もありまして、そういう状況の中で、うちの会社の中では、正直今不安視している部分があって、利用者の数も、もうかなり頭打ちということと、地域の木更津、千葉の人たちには、ある程度、品川駅、横浜駅行きがある、といった認知はされているんですけども、まだいまだにですね、弊社の方に打ち合わせに来る、都会の方から来る人には、来るとき、電車乗ってきたけれども、「高速バスがあったんだ。」という、情報発信が下手なところでありました。

コロナになってから、いろいろイベントごととか、何かあるときには、必ず数字で結果を残して、それを発表するようにとしました。

今までは天気悪かったからあんまりこなかった。というのが責任者の意見だったんですけども、実は4月27日から5月6日まで、ゴールデンウィーク期間中、会社としては、毎年バス乗りきれないことが起きちゃうっていうんで、総務課とか経理課とかもみんな人を出してもらって、私の場合は、5月4日に、アウトレットモールの東京行きのバス停で、乗り切れない可能性があるんで、午後から上り便が出る、夜8時半までですね、立っていて、そのときには必ず乗る人数を記載し、それを4月27日から、お客さんの層がどうだったかを翌日の地上員に申し送りをするような形で、それを見たところ、令和5年度のゴールデンウィーク中は、東京行きが 5,342 名、令和6年度は 7,604 名ということで、私もずっと立っていて、もうほぼインバウンドで、何人かの人に聞いたら香港が多かったですね。

そうなると、何か流れで変わってきて、回数券とかありますかとか安い方法ありますかとか、聞いてくるのかなと思っただんですけども、それはなかったっていうのが、商売してい

ながら非常に恥ずかしく思ったという。

あと、お客様もみんなカップルだったり、家族連れだったり、爆買いのようなお荷物は持っていませんでしたが、みんな聞いてくるのは、「これが東京ステーションまで行くのか」ということと、「お金はどうするんだ」、「チケットは買うのか」などでした。

都会から来るっていうのをいかにふやすかっていう、それにはやっぱり何かイベントもなきゃいけないですし、あと、もっとJR東日本さんと協力し合いながらやっていかなきゃいけないのかなと。

今までは、高速バスで来たけれども「ここに行けないじゃないか」とか、「路線バスもこれじゃ困る」、「高速バスで鴨川駅ついたらけれども、そこから大山千枚田まで、タクシー乗らなきゃいけないのか」とか、しょっちゅうお叱りを受けました。

これが路線バスの時刻表ですっていうけどこれじゃ行って帰ってこれないじゃないかと。

当時は、バス停が釜沼っていうバス停で、こんなの観光客に言えるバス停の名前じゃない。土地の本当の地区の名前であって、その後、大山千枚田入口っていうバスの停留所名に名前変えたりしたんですけれども、ちょっとうちみたいところはちょっとずつできるところからやっていきたいと。

そういう所存でございます。

○議長(五十嵐委員長)

沼野委員ありがとうございました。

非常にリアルな現場のお話から幾つかの課題点が見えたかなと。1つは、やっぱり実態はデータで把握しなければいけないっていう、本当にご苦労の末の結果としてこんな数字が見えてきた、そのほとんどがインバウンドでって言ったときに、次のステップとしてはやっぱりその実態を踏まえたときの、人材育成だったりとか、環境整備だったりとかの必要性ですね。

またお客様の声をちゃんと反映させていく、ネットワークだったりスムーズさみたいなものだったり、原点としてはやっぱりデータにあるのかなあといったところを、ちょっと学ばせていただいたようなご発言だったかなと思いました。

ありがとうございます。

では続きまして阿部委員お願いいたします。

○阿部委員

では、お話をさせていただきます。

今までの各委員のお話等もちろん、いたく同意しながら、お聞きしていたところです。

私の方としてまず木更津市第3次基本計画に向けて、資料3の真ん中の部分でざっくりと項目に出していただけてますが、まず、今回臨むにあたってですね、次期観光振興計画にあります、国の計画、次に、県の計画、この上位計画との、関連性っていうのをちょっと意識した方がいいのかな。

具体的に言いますと、先ほど来出ております、インバウンド誘致っていうのは結構キーワードであるかと思えます。

もう1つ、国のほうも力を入れています人材確保、観光人材確保等々にもかなりキーワード出てきていたかと思えますので、語学の問題云々もあるかと思えますが、もう1個の柱にありますDX化。DXまでいなくていいと思えますけれど、自動翻訳でも、なんならグーグル翻訳で見せながら、やりとりしながらのアナログチックとは言いながら、繋がればいいぐらいの発想でやるといいのかなと。

ちょっとこの例で言いますと、僕、先週モンベルのサイクルガイドツアーを仰せつかってですね、中国から1人で来た女性とマンツーマンでやったんですけど、たどたどしい英語で、普通に会話できて、すごく大変喜んでいただいたという実績があるんで、どうも外国人来ると完璧な、TOEIC何点の英語やんなきゃって構えちゃう。そうでないよっていうのもちょっと伝えられるような、形がありなのかなという気はしております。

あとですね、今言いました国県の施策、上手く乗っかろうというところと、あとこれは広域連携とかの話になっちゃうからちょっと木更津市飛び越えちゃうことになるかもしれないですが、ご承知かと思えますので、DMOの候補法人でいろいろ調べたとき、時事通信が中心になって、いすみ管区がDMO 候補法人に最近なっていて、もう市を飛び越えて、4市の、いすみ、勝浦、大多喜、御宿。その辺が合体してのDMOなんていうのを目指そうという動きもありますので、だからそれを木更津にそのままやりましょうと言うつもりはないんですが、アクアラインイースト観光連盟などの、そういうDMOとは別機能もあったりする、既存の機能をうまく使うのもありじゃないかなというのは感じたところです。

あと、先ほどお話が満間様からあったと思えますが、僕ずっと思っていたのが、国際会議観光都市ができたときに、かずさアカデミアパークで担当していたので、MICE 件数上げなきゃなってやっていた時代がありました。それとともに今現在、SDGs未来都市もなっています。この2つの両方のネームというか、肩書きを持つてる県内唯一の自治体、これはもう堂々と宣言していいし、下手すると全国でもそれほど多くはないんじゃないかと思うの

で、先ほどあったオーガニックツーリズム、SDGsサステナブルツーリズムの文脈の中に、この両方を持つ自治体ですよってというのは、もっと大きくPRして、これは外部の人間だけじゃなく、市民にも対してもですよ、シビックプライドの文脈にも繋がると思うので、そのような形での露出方法あるのかなと感じました。

先ほど来ありますように、人数でなくやっぱり消費単価、消費額のアップは、国内の消費動向の額は観光庁も出している数字でかなり、5兆円近くだったかな、4ヶ月で上がって、2019年やコロナ前のピークをしのぐような勢いになってきていたと思います。

今の国の景気云々は、どっちかとインバウンドだと円安効果とかあるんですけど、本来の日本国民の払うお金も上がってきてることが実際としてあります。よくあるオーバーツーリズムの抑止も含めてのですね高単価の、例えばガイドツアーとか、もっと高値誘導のハイエンド層狙いのツアーと、既存のものとかの、ちょっと合わせ技っていう方法もやってみると面白いんじゃないか、このように思っております。

私も年に何回か学生向けに講義するんですけども、ずばり観光ってのは、裾野産業。下までたくさんあるんで、さっき言ったキャッツアイでも何でも木更津にまず来て、おいしいものを食べて、そうすると、木更津の特産品なんかがあるとね、国に帰ってとかも、地元に戻っても食べてくれる。また木更津に行こうというリピーター効果なんかもあるので、特産品までいかないんですけど、クールジャパン的なクール木更津みたいな、また戻ってきてもらうということも意識するといいいかな。

最終的に、自治体の観光政策は、ずばり税收のアップと雇用の確保。もうこれだけを考えて政策していこうと。結構学生に公務員になる子も多いので、それだけと言い切っちゃうのはちょっと乱暴なんですけれど、わかりやすく説明するためにそこを意識しています。雇用の確保なんていうのも、1つキーワードとして、観光に関わるものだけじゃない、市民全部の雇用の確保に繋がるように、そんな政策まで見込めるといいのかなと思いました。以上になります。

○議長(五十嵐委員長)

阿部委員ありがとうございました。いろんなご意見がございました。

私も特に広域連携は非常に模索していくべきことで、多分千葉県というところも飛び越えながら、様々な連携は非常に好ましいところかなと思います。特に、阿部委員が推進していらっしゃるサイクルツーリズムなんかは、例えば、訪日客向けにはやっぱり、しまなみ海道とかが聖地になっていたりしますので、そういうところと手を結ぶとかね、そういったこと

もいろんな策としては考えられるのかなと思ったので、なるほどと思いながらお聞きしておりました。

では最後になります。坂口委員お願いいたします。

○坂口委員

坂口です。それでは私の方からちょっと何点かあるんですが、満間委員からもありましたようにですね、数値というところはやはり重要かなというように思います。

やはり目標があって、そのところでどれだけ達成した、達成できなかった、その中で見直していくというところは明確にやっていかなきゃいけないというふうに思います。

直近で言いますと、日東交通さんもいらっしゃるので、公共交通機関という部分では、人が増えるかっていうとやっぱりもう減少の一途をたどっているところですので、パイを奪い合うというよりもお互い協力していかにして、やはり木更津の公共交通機関としてその利用者の足を守っていくというところが非常に重要だなというふうに感じているところで、実際ゴールデンウィークの内房線の利用状況なんですけど、これプレス発表されてるんですが、大体対前年で100%、近距離収入で大体103%ぐらいいってるんですが、これがコロナ前 2018 年度比で見ると、90%ぐらいというところです。

我々も混んでいるようにすごく見えていたところであったんですが、実際はお客様がそこまで来ていなかったというようなので、びっくりしています。

とは言っても、混むところは混むというところで、分散しないで一極集中になってるような形でした。

特に内房線で混んでいたのが、木更津駅はそこまでではなかったんですが、やはり浜金谷の鋸山のところというのが極端にやっぱりお客様がいらして、そこもオーバーツーリズムではないですけど、トイレがないと。お客様、観光客が来ていただくのはいいんですが、やはりトイレが整備されてないっていうところが課題になっているというところでした。

その中でもですね、やはり日本人が求めているものと、海外のお客様が求めているものが全く違っておりまして、そこというのは、すみ分けをしていく必要があるのかなというふうに感じております。

ちなみになんですけど、インバウンドで成田空港に降りられて、千葉県に来ていただけるお客様って、大体1割5分ぐらいしかいらっしゃいません。大体が都内の方に出て行かれたりとか、京都、仙台とかあっちの方のメジャーの方に行かれたりというところがございます

ので、なかなか海外の人に向けて何かを発信するということも具体的にポイントを絞ってやっていく必要性があるのかなあというふうに感じております。

ただですね、日本人の方の東日本管内に限るんですけど、私千葉県の木更津で仕事やっていますと言うと、だいたい話通じます。「だいたいチーバクんのこのあたりだよな。」って、ピンポイントでわからないにしても、千葉の木更津っていうと、大体の人が何となくこの辺だというのがわかるので、やはりそれだけの木更津というブランド力というのは、あるなというふうに感じているので、それをやはり活かしていくというのが、日本の方を迎え入れる活路になってくる1つではないかなというふうに感じています。

もう1つがですね、木更津だけで高校が7校あるので、やっぱり学生の町なので、できるかどうかわからないにしても、高校生の新しい目線だとか、感性だとかっていうのも取り入れることによって、上の層ではなくて若い方たちの聖地化みたいなのが木更津でできると、また変わってきたりするかなあというふうにも思います。高卒が7校もあって卒業している方がいっぱいいて、メジャーな方も先日亡くなった中尾さんなんかもそうなんですけど、やっぱり木更津市出身の著名人の方が多いので、その方達が「木更津っていい町だよな。」と発信できるような何かがあれば、もっと集客という点で1つの活路を見出せるところもあるかなというふうに思っておりますので、ぜひこれからもよろしく申し上げます。

○議長(五十嵐委員長)

坂口委員ありがとうございました。

確かにね、インバウンド客と日本人とでは、すべき施策が違うということはその通りだと思います。

一方で、成田から降りられた方で一旦東京出られても、私が勤めております浦安には、ものすごくたくさんの方の外国人の方が舞浜という駅で降りられているっていう実態もございまして、こういったことをね、なかなか自分たちの地域に誘客できない浦安市の悩みっていうのもございまして、そのあたりは似たようなところもあるかなと思いつつも聞いておりました。

そういう施策のターゲットを誰にするのかっていう明確化ですよな。そこにどういう知恵を生かすかって言ったときには、高校生の知恵というのは非常に面白いなと思ってお聞きしておりました。

では、委員の皆様のご意見一旦終わりましたけれど、何か追加でお話しになりたい方いらっしゃいますか。

よろしいでしょうか。

多くの委員の皆様、ご意見たくさん頂戴しまして誠にありがとうございました。

今後は皆様から頂戴しましたご意見をもとに事務局の方で、改めて計画の策定にご活用いただけるということで、今後進めていただければと存じます。

では、以上で本日予定された議題がすべて終了いたしましたので、議長の任を解かせていただきたいと思えます。では皆様、円滑な議事進行にご協力いただきまして誠にありがとうございました。

○事務局（齋藤）

五十嵐委員長、議事進行ありがとうございました。

先ほど策定スケジュールでご説明申し上げました通り、次回、第2回の委員会は10月10日木曜日を予定しております。改めて、時間等につきましてはご案内申し上げますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは以上をもちまして、第1回木更津市観光振興計画推進委員会を終了といたします。

お忙しい中、誠にありがとうございました。

上記会議録を証するため下記署名する。

令和6年6月19日

木更津市観光振興計画推進委員会委員長 五十嵐 潤子